

## アメリカ留学を終えて

21014041 倉島 由衣

私はアメリカに行く前、4か月で自分がどう変わるかという想像ができず、アメリカに行けば何か変わるだろう程度の考えだけでこの留学に臨んでいた。そして行ったあとも最初は外国というだけで浮足だち、アメリカにいただけで自分が少しかっこよくなったと勘違いしたが、アメリカも日本と変わらない一つの国であり、鼻が高くて目が青くてもアメリカ人も話す言語が違うだけの人間なのだということを痛感した。こんなこと当たり前なのだが、どうしても国や言語の壁は大きく、別の「モノ」として見てしまいがちだったのだと感じた。言葉が通じないということは確かに大きな隔たりではあるが、英語に自信がないということで積極的になれない私とは違い、他の国の友達ネイティブでなくともどんどん人脈を広げていた。それを見て私も少し自分から歩み寄ってみると、言語など関係なく通じ合えた。このような経験ができただけでもこの留学には意義があると思う。また、どんなに困難な状況でも、英語という手段を使って乗り越えなければいけない状況下で生活することで英語力は上がったと確信している。英語を別言語ではなく、コミュニケーションの手段として考えられたことは自分の中でとても大きかった。そして、日本という国がもっとすきになれた。他国の人には自分の国に誇りをもち、自分の国のことをよく知っているのに、私たちはほとんど自分の国のことを知らず、多国間のディベートがあった時も今自分の国はどのような状況なのか説明することができなかった。さらに、元々洋楽や海外ドラマが好きだったのでアメリカに過度の期待と憧れを持っていた私は、何かにつけて日本はアメリカに比べてダメなのだと思っていた。しかしそれはとても浅はかな考え方で、もっと自分の国のことを知って日本はこんな魅力があるのだと伝えられるほうが100倍素敵なことであり、今必要なことなのではないかと考える。このことに気付けたのも実際現地に行ったからであり、もしこのまま気づけずに英語を勉強し、日本という枠組みの中だけでおごっていたかもしれないと思うと行ってよかったと本当に思う。このことを踏まえ、この留学をサポートしてくれた家族や友達、先生方にはとても感謝している。一緒にアメリカに行った仲間たちはずっと大切にしたい友達になったし、支えあった4か月は生涯忘れられない貴重な経験となった。

今後もこの経験を活かし、英語の勉強に励むとともにもっとたくさんの海外経験をしていきたい。